



## 三つの幸せ

校長 岡本 昌子

5月19日の全校朝会で、「三つの幸せ」という話をしました。

人生には、「三つの幸せ」があります。一つ目の幸せは、「してもらう幸せ」です。私たちは、小さいときから、抱っこをしてもらったり、ご飯を食べさせてもらったりと多くの人にお世話をしてもらって大きくなってきました。誰かに何かをしてもらおうと、自分が大切にされているという実感が湧いてとても幸せな気持ちになります。小学校に入学してからも子供たちは、勉強を分かるまで教えてもらったり、運動ができるように教えてもらったりしています。また、友達に相談にのってもらったり、助けてもらったりしたこともあるでしょう。そんな時に感じるのが、「してもらう幸せ」です。

二つ目の幸せは、「できるようになる幸せ」です。子供たちは、小さな頃から、この「できるようになる幸せ」と積み重ねて成長してきました。例えば、自転車に乗れるようになったとき、鉄棒ができるようになったとき、漢字が書けるようになったとき、かけ算九九が覚えられたとき、満足感や達成感といううれしさを感じます。このように、今までできなかったことができるようになった時に感じるのが、「できるようになる幸せ」です。

では、三つ目の幸せは何でしょう。学校では、特に6年生がいつもがんばってくれていることなので尋ねてみたところ、6年生の男子児童が「してあげる幸せ？」と答えてくれました。正解です。誰でも、自分以外の誰かのために何かをしてあげて、喜んでもらえた経験があるはずです。学校は集団生活ですので、この「してあげる幸せ」を感じる機会はたくさんあります。係活動や給食当番、うさぎ当番(4年生)、委員会活動(5・6年生)などは、全てこの「してあげる幸せ」を感じる事ができる活動です。その他にもこんな活動もあります。先日の低学年遠足では、2年生が事前に遊びの計画を立て、航空公園で1年生と遊んであげました。広い公園で2年生と一緒にたくさん遊べた1年生はもちろんうれしそうですが、よく見ると苦労して計画を立て、当日も遊びのルールなどを一生懸命説明した2年生の方が幸せそうな顔をしていました。遠足からもどってきてからの作文にも、「1年生が楽しんでくれている顔を見て、自分もとてもうれしくなった。」という感想を書いた2年生がたくさんいました。まさしく「このしてあげる幸せ」をたっぷり感じてくれているのです。

実は、この「してあげる幸せ」は、三つの幸せの中で一番大事な幸せなのです。それは、「してあげる」方も、「してもらった」方も両方幸せになって、幸せが二倍になるからです。「してあげる幸せ」は、大人も子供もその心がけ次第でいくらでも大きく膨らませることができます。「してあげる幸せ」がいっぱいの立野小学校にしたいものです。



### 学校生活のこんなところにも 「三つの幸せ」が！

(5月29日(木)1校時 体育館にて)

2年生のスポーツテスト「シャトルラン」の記録を5年生が計測しました。

2年生は、5年生にお世話してもらった幸せと去年よりも記録が伸びる幸せを感じました。5年生には、2年生の記録をとりながら、お世話してあげる幸せや励ましてあげる幸せがあったことでしょう。